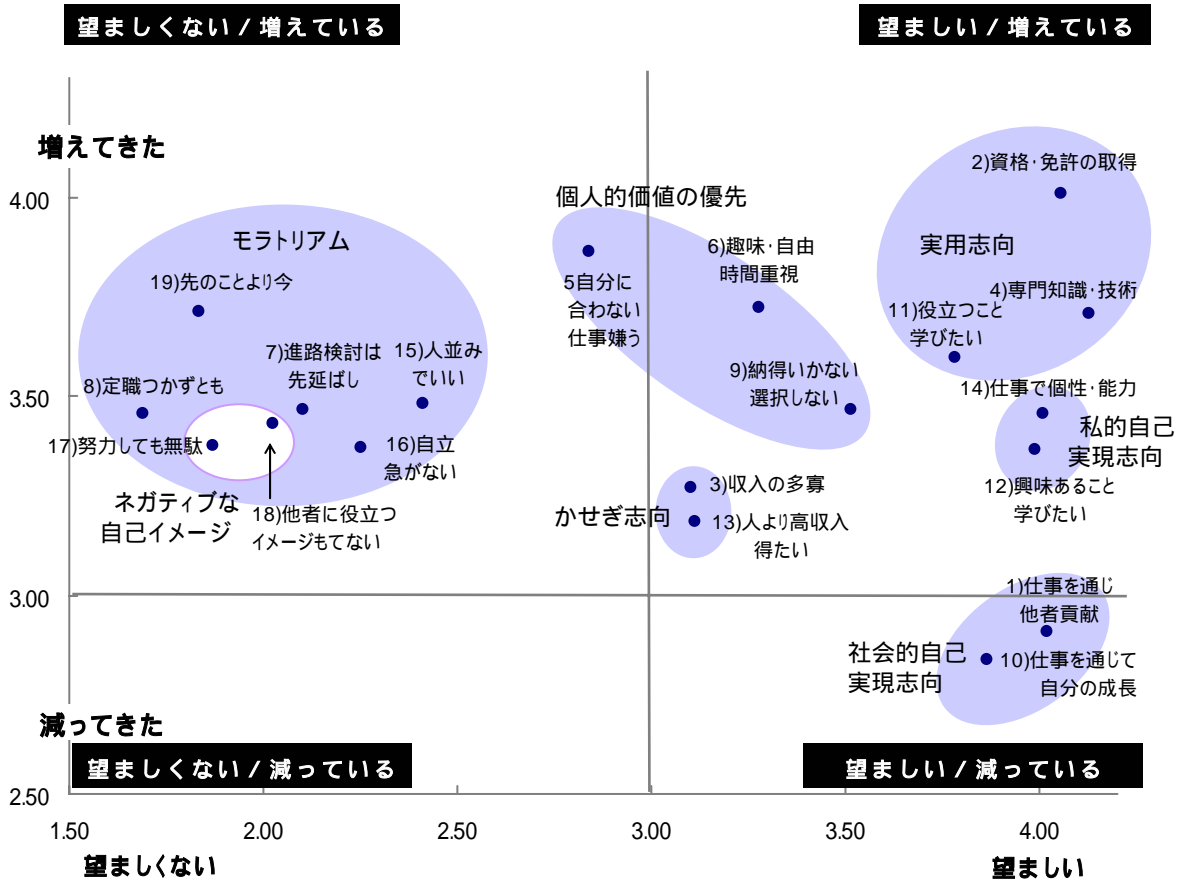


2 指導を通じて感じる生徒の価値観の変化

(1) 「自分」という「殻」に閉じこもった自己実現志向

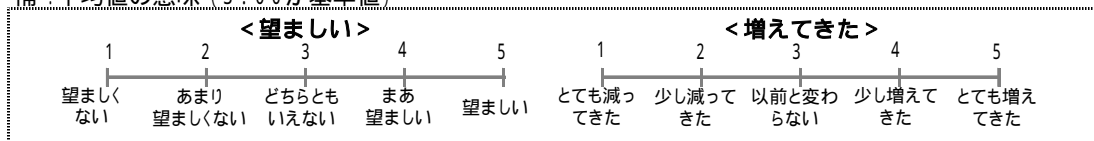
指導を通じて感じる最近の生徒の価値観について、「どのような価値観を持つ生徒が増えてきたか」、「その価値観は先生から見て望ましいと思えるものか」の2つの側面で回答していただいた。データ4は、縦軸を「増減の度合い」、横軸を「望ましいかどうか」とし、各質問項目に対する回答の平均値をプロットしたものである（具体的な数値についてはp17データ8参照）。さらに、因子分析の結果も参考に、～の7つのカテゴリを設けた。

データ4 高校教師が感じる生徒の価値観の変化



指導をしていて感じる最近の生徒の価値観 / 「当てはまる生徒が増えてきたか」「教師から見て望ましい価値観であるか」のそれぞれについて5件法で回答。数値は、3.00を基準とする平均値。具体的な値はデータ8参照。

補：平均値の意味 (3.00が基準値)



高校の先生方から見て「望ましい」と思える価値観（横軸の数値の大きい項目）は 実用志向（役に立つ）、私的自己実現志向（個性・自分らしさ）、社会的自己実現志向（成長と社会貢献）などであり、反対に「望ましくない」とされたのは、モラトリアム（先延ばし）や ネガティブな自己イメージ（どうせ自分なんて：自己効力不全）である。一方、個人的価値の優先や かせぎ志向は 3.00 付近にあり特に望ましいとも望ましくないとはいえ切れない。

該当する生徒が「増えているか」については、実用志向の平均値が 3.60～4.01（カテゴリ平均 3.77：データ 8）という高い値であり、高校の先生方が今回の調査項目の中では最も「増えている」と感じているカテゴリである。また、自己実現志向（仕事や学びの中で自分を活かす）の中でも、自分の興味や個性の伸張を重視する 私的自己実現志向の平均値は 3.4 前後であり、「増えている」と感じている先生方の方が多い。この 2 カテゴリは、先生方の「望ましい」という想いと、生徒の実態として「増えている」感覚とが合致しているようである。個人的価値の優先（公的な価値観よりも私生活に重きを置く）についても「増えている」とする割合は高く、実用志向に次ぐ。

一方で、社会の中で自己の役割を果たそうとする 社会的自己実現志向は、「望ましい」の数値は高いのだが、当てはまる生徒が「増えてきているか」については 3.00 を切っており、減っていると感じておられる先生方の方が多い。先生方の「願い」と生徒の「実態」にギャップが見られるカテゴリと言える。

高校生は、「自分にとっての居心地の良さ」を追求したがったり、「自分らしさや個性の伸張」を図りたい気持ちは強いものの、「社会における自分が果たす役割」つまり、役割期待に応える意識が低くなってきていると先生方の目に映っているようである。

社会的な自己実現を図るためには「自分にとっての価値」と「社会から求められる価値」の結節点を探り、実現可能な（手の届きそうな）目標設定を行い、その時点で設定した目標の実現に向けて挑戦していく必要がある。しかし、前章データ 2 で見たように、「社会から求められる価値」を追求しようとする高校生（「7.希望する職業についての知識」「8.最近の産業・職業の知識」を持っている）は 1～2 割程度に過ぎず、また「自分にとっての価値」が分からない（「5.進路選択上重視すること」「6.自分の能力・適性」が分からない）生徒は 3 割前後で 97 年と比べても増加傾向にある。高校の先生方の認識はこの実態を反映していると言えるだろう。

また、「望ましくない」とする先生方の方が多かった モラトリアム、ネガティブな自己イメージの各項目に当てはまる生徒が増えてきたかどうかについては、平均値が「以前と変わらない」から「少し増えてきた」の間（3.37～3.71：データ 8）であり、やや増加傾向にあると認識されている。

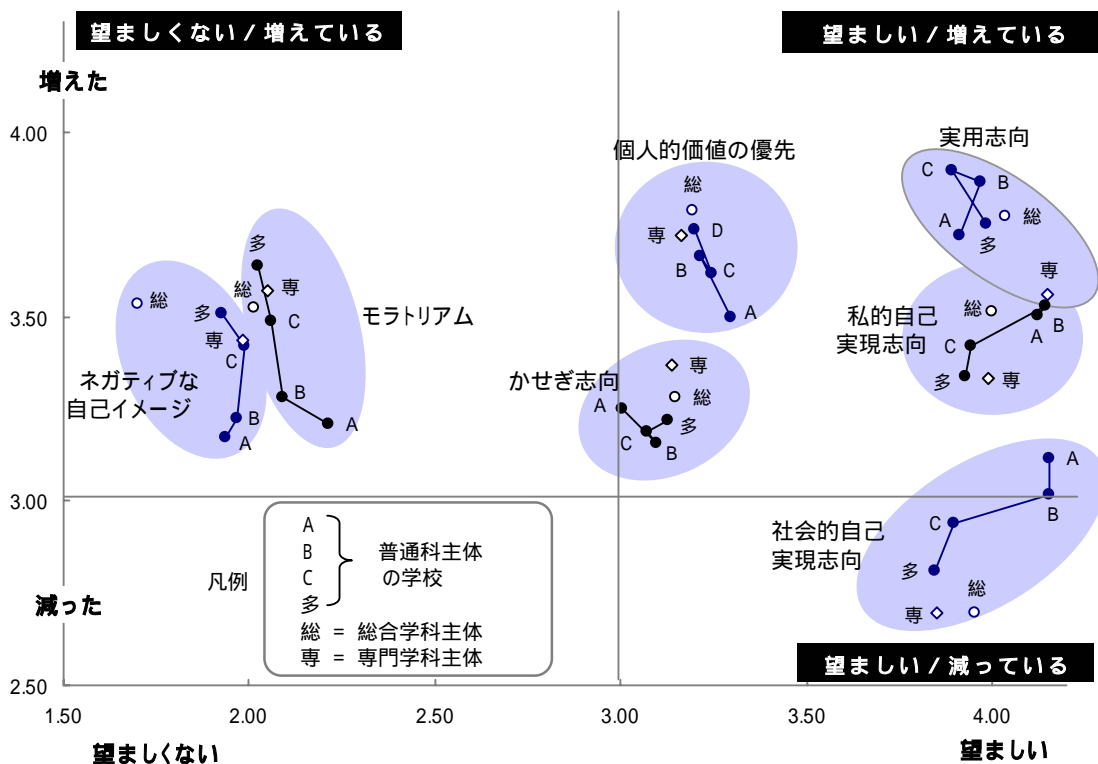
（2） 学校類型による違い

学校類型による違いをデータ 5 に示した。傾向を単純化して把握するために、項目別の値ではなく、～ の各カテゴリの平均値をプロットした（具体的な数値は p 17 データ 8 / 学校類型の設定基準は p 2 参照）。

注目したい点は 社会的自己実現である。「望ましい」とする度合いに学校類型間で大きな違いが見られる。進学重点校 A、B 群（普通科）の値が高く、その他が相対的に低い。加えて「増えてきた」かどうかでは、全体の平均値は 3.00 を下回っていた（「減っている」とした先生方のほうが多かった）項目なのだが、普通科に限ってみるとわずかながら「増えてきた」という意見が 3.00 を上回っている。普通科の学校群では、総合的な学習の時間の中で進路学習の体系化を図った学校が多く、生徒の人間的成長に手応えを感じている先生が相対的に多いようである。

一方、モラトリアムやネガティブな自己イメージについては、普通科（進学重点校 C 群、進路多様校群）や総合学科、専門学科で「増えてきた」とする回答が多く、普通科の学校群で相対的に少ない。

データ5 高校教師が感じる生徒の価値観の変化（学校類型別）



指導をしていて感じる最近の生徒の価値観 / 「当てはまる生徒が増えてきたか」「教師から見て望ましい価値観であるか」のそれぞれについて5件法で回答。数値は、3.00を基準とする平均値。～の各カテゴリの平均値をプロット。数値はデータ8参照。学校類型区分についてはp2参照。

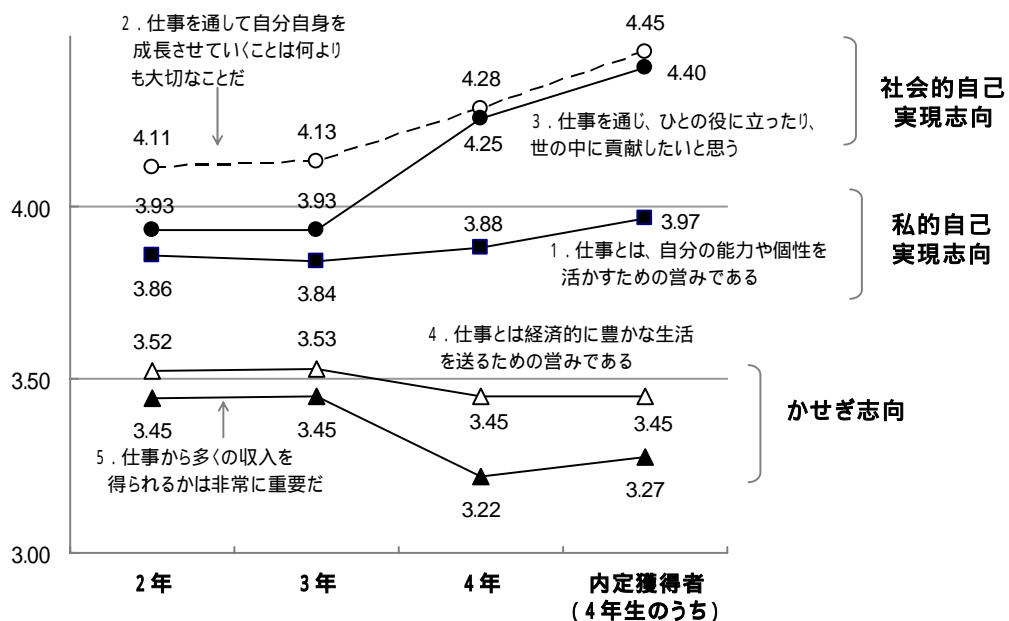
(3) 「实用志向」を根^て子^こに「社会的自己実現志向」の育成を

社会的自己実現志向については、先生方の多くが望ましい価値観だとお考えなのだが、その想いに反して当てはまる生徒は全体としてはやや減少しているとの認識が持たれている。先生方の「願い」と生徒の「実態」にギャップが見られる項目である。ベネッセ教育総研が別途実施した大学生・高校生の実態調査の結果から今後の育成のヒントを探ってみたい。

データ6は、大学生の勤労観（仕事を通じて何を実現したいか）の学年比較を示した。就職活動を体験した（している）4年生になると「社会的自己実現志向」が大きく伸びることが確認できる。さらに就職内定を獲得している学生では、この傾向がより一層顕著である。学生は、実際の就職活動（社会で求められる価値観・能力要件との対峙）の経験から、職業を通じて自分が社会に価値を提供すること（役割期待に応えること）の意味が理解しやすくなるようである。就職活動で得られるこの「気づき」を、キャリア教育によって体感させることができれば、学生にとっては、学校と社会の接続をよりイメージしやすくなるであろうし、社会で必要とされる能力・スキルの準備学習（レディネス形成）の効果が今以上に高まることが期待でき、いわゆるフリーター問題の解決にもつながるのではないだろうか。

また、大学生の自己評価では、「社会的自己実現志向」が「私的自己実現志向」よりも高く、今回の調査で明らかになった高校の先生方が抱く高校生像との違いが見られる。これが、高校生と大学生という成長段階の違いなのか、それとも教師による評価と学生（生徒）の自己評価とのズレなのかは、今後の検証課題としたい。

データ6 <参考> 大学生の勤労観 - 仕事を通じて何を実現したいか - (学年比較)



ベネッセ教育総研 2004年5月 4年制大学2~4年生 n = 14,582
 数値:「とてもあてはまる = (5)」から「全くあてはまらない = (1)」の平均点 (3.00が基準)

今回の調査で先生方が現在の高校生の持つ価値観として「望ましく」かつ「増えている」と感じておられたのは「実用志向」である。実際に高校生の学習動機づけに対する反応をデータ7で確認してみても、F実用志向（将来の仕事や生活に役立てたいから学ぶ）は最も高い項目群に属しており、その有効性が期待できる（反応が高いのはC報酬志向とF実用志向であるが、実用志向は学校類型を問わず40ポイント以上の数値を示している）。

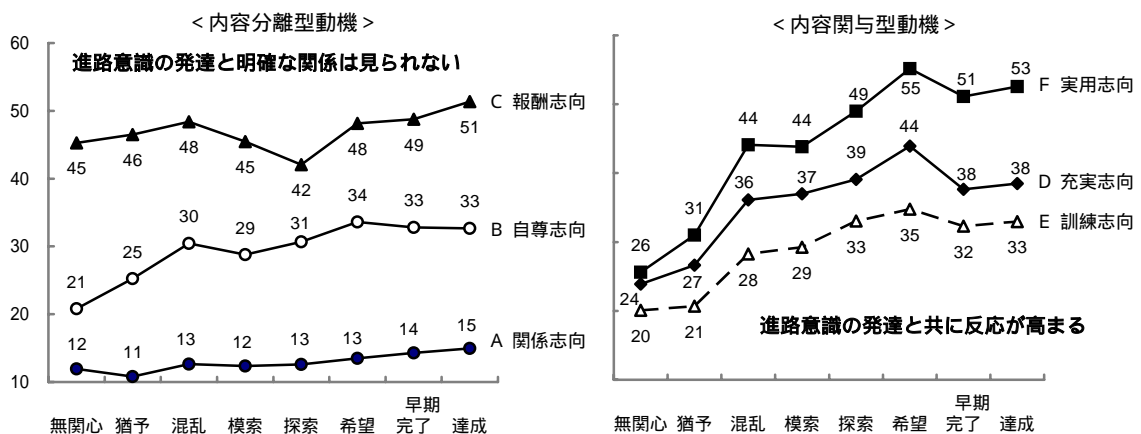
さらに、実用志向は進路意識の発達段階との関係も強いことから、進路学習の成果を教

科学習に転移させる際の重要概念と考えられる。教科科学習においては「その教科や関連する学問の社会における役立ち」について時折話題として取り上げる。進路学習の際には「社会で役立つ（求められる）知識・スキル」が「なぜ求められるのか（背景・理由）」、「高校生活のどのような活動を通じて養うことが出来るのか」などを考えさせる。そういった働きかけを通じて、生徒達は「社会が求める価値」と自分の成長とを重ね合わせてイメージすることが出来たり、「社会において自分が果たせる役割」を探求するきっかけを得るのではないだろうか。

データ7 <参考> 学習動機づけへの反応（高1生徒）

	全体	学科			進路意識の発達8段階								達成 無関心
		普通	普通	専門	無関心	猶予	混乱	模索	探索	希望	早期完了	達成	
内容分離型動機	30.4	31.2	29.7	27.8	26.0	27.5	30.5	28.9	28.4	31.8	32.0	33.0	1.3
A 関係志向	12.9	11.6	14.4	15.5	11.9	10.8	12.6	12.4	12.6	13.5	14.3	14.9	1.3
先生が気にかけてくれるから	5.0	4.7	5.4	5.1	5.0	4.0	5.2	4.1	5.6	4.8	8.1	6.4	1.3
みんなと一緒に何かをするのが楽しいから	20.9	18.6	23.4	25.9	18.9	17.6	20.1	20.7	19.6	22.2	20.5	23.5	1.2
B 自尊志向	30.7	31.3	30.2	28.8	20.8	25.3	30.4	28.8	30.7	33.6	32.8	32.7	1.6
成績がよいと自信がもてるから	38.5	37.3	40.5	39.1	27.0	33.0	39.2	37.6	35.2	40.6	42.1	40.1	1.5
ライバルに負けたくないから	22.9	25.4	20.0	18.4	14.6	17.5	21.7	19.9	26.1	26.7	23.5	25.2	1.7
C 報酬志向	47.5	50.7	44.6	39.3	45.3	46.5	48.4	45.5	42.1	48.2	48.8	51.3	1.1
よい上級学校を卒業したほうが、社会に出てからも得なことが多い	42.9	48.1	37.2	31.6	44.3	43.9	44.3	41.1	36.2	42.3	44.5	47.1	1.1
成績がいいと入試(進学)に有利だから	52.1	53.2	52.0	46.9	46.2	49.1	52.4	49.9	48.0	54.1	53.0	55.6	1.2
内容関与型動機	38.5	41.1	33.6	38.1	23.2	26.1	36.2	36.7	40.4	44.6	40.4	41.3	1.8
D 充実志向	38.0	41.4	32.4	35.2	23.9	26.6	36.1	37.0	39.1	43.9	37.6	38.5	1.6
何かができるようになっていくことは楽しいから	47.0	49.5	43.3	44.1	31.4	35.5	45.3	46.0	49.4	53.2	46.2	46.5	1.5
すぐに役に立たずとも、勉強がわかること自体おもしろいから	29.0	33.3	21.5	26.4	16.4	17.7	27.0	28.0	28.8	34.6	29.1	30.5	1.9
E 訓練志向	30.4	32.8	25.8	29.9	20.1	20.7	28.3	29.2	33.0	34.8	32.3	33.0	1.6
勉強すると、筋道だった考えができるようになるから	26.5	29.5	21.0	25.3	18.4	17.8	25.1	25.3	29.6	30.2	29.1	26.6	1.5
いろいろな面から物事が考えられるようになるため	34.4	36.2	30.6	34.6	21.8	23.6	31.5	33.1	36.5	39.3	35.5	39.3	1.8
F 実用志向	47.2	49.1	42.5	49.1	25.6	31.0	44.1	43.8	49.0	55.2	51.1	52.6	2.1
勉強で得た知識は、いずれ仕事や生活の役に立つと思うから	46.6	46.8	44.7	50.3	30.2	33.6	44.3	44.4	46.7	52.6	48.3	53.1	1.8
学んだことを将来の仕事にいかしたいから	47.7	51.4	40.3	47.9	21.1	28.4	43.9	43.2	51.2	57.7	53.9	52.0	2.5
標本数	6,416	3,273	2,145	998	159	426	1,227	1,085	246	1,771	266	433	

進路意識の発達段階と学習動機づけへの反応



・数値は、肯定指数 = 「とてもそう思う%」 + 「まあそう思う%」 × 0.5。□ は全体集計値の110%以上、○ は90%以下の場合。
 ・普通 「学習活動の検証に関わる共同研究」2003年11月(高1) n=3,273 /
 普通 ・専門 「高校生の進路意識と学習行動に関わる共同研究」2004年6～7月(高1) n: 普通 = 2,145、専門=998
 A～F 6つの学習動機: 東京大学教育学研究科 市川伸一教授の2要因モデルによる
 (参考: 『学ぶ意欲の心理学』2001 P H P新書、『進研ニュースview21 2004年4月号』p10 ベネッセ教育総研、他)
 進路意識の発達 8段階モデル: ベネッセ教育総研 高田正規の質問紙による類型
 (参考: 『高校生の学力変化と学習行動』2002、『進研ニュースview21 2004年6月号』p40 ともにベネッセ教育総研、他)

データ8 高校教師が感じる生徒の価値観の変化（平均値）

	望ましい価値観といえるか							当てはまる生徒が増えているか						
	普通科		普通科		総合	専門	全体	全体	普通科		普通科		総合	専門
	A	B	C	多					A	B	C	多		
実用志向	3.91	3.97	3.89	3.98	4.03	4.15	3.99	3.77	3.72	3.86	3.90	3.75	3.77	3.56
4) 専門的な知識や技術を身につけたい	4.16	4.18	4.06	4.09	4.18	4.20	4.13	3.70	3.75	3.82	3.80	3.69	3.76	3.46
2) 資格や免許、検定をとりたい	3.75	3.93	3.88	4.13	4.24	4.33	4.06	4.01	3.81	4.06	4.21	3.99	3.99	3.83
11) 実社会で役立つことを学びたい	3.82	3.79	3.74	3.74	3.69	3.92	3.78	3.60	3.59	3.71	3.68	3.58	3.57	3.39
私的自己実現志向	4.12	4.14	3.94	3.93	4.00	3.99	4.00	3.41	3.51	3.53	3.42	3.34	3.51	3.33
14) 仕事で自分の個性や能力を活かしたい	4.12	4.16	3.94	3.94	4.01	4.02	4.01	3.45	3.52	3.57	3.49	3.40	3.45	3.37
12) 自分が興味のあることについて、もっと勉強したい	4.12	4.12	3.94	3.92	3.99	3.96	3.99	3.36	3.49	3.49	3.35	3.28	3.58	3.30
社会的自己実現志向	4.15	4.15	3.90	3.85	3.96	3.85	3.94	2.87	3.11	3.01	2.94	2.81	2.69	2.70
1) 仕事を通じ、人の役に立ったり、世の中に貢献したい	4.21	4.24	4.02	3.96	4.10	3.79	4.02	2.91	3.15	3.02	3.05	2.88	2.73	2.61
10) 仕事を通して自分自身を成長させていきたい	4.10	4.07	3.77	3.74	3.81	3.92	3.87	2.84	3.07	3.01	2.83	2.75	2.66	2.79
個人的価値の優先	3.30	3.25	3.21	3.20	3.19	3.16	3.21	3.69	3.50	3.62	3.66	3.74	3.79	3.72
9) 納得のいかない進路選択はしたくない	3.71	3.61	3.52	3.45	3.58	3.44	3.51	3.47	3.37	3.49	3.46	3.47	3.52	3.46
6) 自分の趣味や自由な時間を大切に暮らしたい	3.29	3.28	3.25	3.29	3.27	3.28	3.28	3.72	3.54	3.61	3.70	3.80	3.82	3.78
5) 自分に合わない仕事はしたくない	2.90	2.85	2.87	2.86	2.73	2.76	2.84	3.86	3.59	3.75	3.84	3.95	4.01	3.92
かせぎ志向	3.01	3.10	3.07	3.13	3.15	3.14	3.11	3.23	3.25	3.16	3.19	3.22	3.28	3.37
13) 人よりも高い収入を得たい	3.02	3.10	3.06	3.13	3.16	3.17	3.11	3.19	3.20	3.13	3.15	3.18	3.13	3.32
3) 仕事から多くの収入が得られるかどうかは非常に重要だ	2.99	3.10	3.08	3.13	3.13	3.11	3.10	3.27	3.30	3.18	3.22	3.26	3.43	3.42
モラトリアム	2.22	2.09	2.06	2.02	2.01	2.05	2.06	3.50	3.21	3.28	3.49	3.64	3.53	3.57
15) 頑張っ苦労や挑戦をせずとも人並みに暮らせばいい	2.49	2.42	2.31	2.42	2.47	2.48	2.41	3.48	3.25	3.29	3.56	3.57	3.47	3.52
16) 経済的な自立はいそがなくてよい	2.40	2.26	2.33	2.21	2.28	2.20	2.25	3.37	3.25	3.24	3.34	3.47	3.33	3.40
7) 将来について真剣に考えるのはまだ先でいい	2.30	2.14	2.09	2.05	2.12	2.11	2.10	3.46	3.13	3.24	3.43	3.63	3.52	3.51
19) 先のことを考えるより、今を楽しく生きたい	2.03	1.91	1.86	1.78	1.55	1.83	1.83	3.71	3.34	3.43	3.71	3.86	3.82	3.87
8) 今の世の中、定職につかなくても暮らしていける	1.86	1.72	1.72	1.67	1.64	1.62	1.69	3.46	3.07	3.19	3.40	3.65	3.49	3.56
ネガティブな自己イメージ	1.94	1.97	1.99	1.93	1.70	1.98	1.95	3.40	3.17	3.22	3.42	3.51	3.53	3.43
18) 自分が世の中や他人の役に立てるイメージが持てない	2.04	2.03	2.08	2.00	1.77	2.05	2.02	3.43	3.25	3.26	3.44	3.52	3.55	3.47
17) 努力してみても大したことはできない	1.83	1.91	1.89	1.85	1.63	1.91	1.87	3.37	3.09	3.18	3.39	3.50	3.52	3.39

数値は5件法で最も否定的選択肢を1、最も肯定的選択肢を5とした平均値(3.00が基準値)